

校区の共育目標「ふるさと長糸を愛し、そのよさを伝え広げる子どもたちの育成」【参加と貢献！】

「コミュニティ・スクール長糸小」学校運営協議会通信

長糸びより

令和5年度第4号

令和6年2月1日

第3回長糸小学校学校運営協議会（11月17日開催）から2か月と少し。令和6年1月25日（木）、第4回の学校運営協議会を開催しました。11月後半から1月上旬にかけて、本校でもインフルエンザが流行し、開催できるか心配でしたが、学習参観では新年を迎え気持ちを新たに意欲的に取り組む子ども達の姿をお見せすることができました。学習参観後の協議では、後期の学校自己評価の結果と学校関係者評価について説明させていただき、今後の教育活動の方針・方策を確認しました。

【学習参観におけるご意見】

- 給食記念週間に合わせて、1年生では動画を使って調理員さんの仕事を捉えさせているのを見て、給食や食への感謝の気持ちが深まると感じた。
- 2年生の音楽科の手遊び歌は自分達が子どもの頃にもしていたが、今の子ども達も喜んでしているのを見て、ほっとした。
- 2年生の音楽科の手遊び歌は、家に帰って子どもが親とすれば、親子のコミュニケーションの活発化にもなると思った。
- 4年生のプログラミングは、子どもによっては苦手とする内容かもしれないが、模型の車を使って、自分が考えたプログラムを実際に試しながら学習を進めていたので、楽しく学習する工夫をしていると感じた。
- 4年生のプログラミングは、内容が身近なものになってきていると感じた。こういった学習が、さらに増えるといいなと感じた。
- 4年生のプログラミングは、子どもの「なんで？」からその疑問を解決しようとする流れになっていて、子ども達が学んでいると感じた。
- 4年生のプログラミングは、頭の中で考えるだけでなく、実際に車を動かして試していたので、量感を養える学習になっていると感じた。
- 4年生のプログラミングは、子どもの論理的思考を育てていると思った。
- 5年生の算数科では、先生と一緒に学習する子どもと自分達で学習する子どものグループに分かれていて、個を生かす工夫をしていると感じた。
- 6年生の社会科を見て、自分の考えをしっかりとっておかないといけない子ども、時代の波に押し流されない子どもを育てる必要性を感じた。
- 子どもが自分で学習を進めている姿に驚いた。
- 子ども達が素直だし、先生方も熱心。
- 新しい学習内容や学習のスタイルは、理解面が心配されるが、これから求められる教育の姿はこれなのかなと感じた。
- 新しい学習内容（プログラミング等）は家庭では教えることは難しいが、すごいと感じた。



【4年 総合 プログラミング】



【5年 算数 割合のグラフ】

学校自己評価（後期）

学校自己評価とは、教職員が学校教育目標の達成状況及び教育活動の実施状況を評価したものです。その際、評価の客観性を保障するために、児童そして保護者の皆様による「学校生活アンケート」の結果も参考にしています。学校自己評価は、年間2回行っています。1回目（前期）は、前期前半終了時（7月）、2回目（後期）は後期前半終了時（12月）です。この2回を通じて、本年度の成果と課題を明らかにし、次年度の方向性を定めていきます。

後期の自己評価の結果を受けて、令和5年度の残りの期間から次年度にかけての教育活動の方針・方策は、以下の通りです。本校児童、保護者、地域の方々の期待に添えるよう、全職員で尽力してまいります。

【今後の教育活動方針・方策】 ※下線部は、特に重視する部分です。

【めざす子ども像Ⅰ：目標をもって元気に活動する】のさらなる育成に向けて

- (1) 種々の活動に自分なりのめあてをもって最後までやりぬく態度を育て、自信をもたせます。
・子ども一人一人の状況に応じて、活動に対して意欲をもったり意欲が持続したりするような「めあて」をもたせます。
・活動における励ましや賞賛を積極的に行い、活動後の「ふり返し」に自信をもって取り組めるようにします。
- (2) 運動に親しみ、体力を高めます。
・体を動かすことが楽しくなるような活動を、体育の学習を中心に行います。
・体力向上プランの実施状況を定期的に評価し、組織的・計画的に体力を高めていきます。
- (3) 家庭・地域と連携して、子供の命と健康を守ります。
・年間を通じて、安全・防災・健康教育を組織的・計画的に実施します。
・教職員の危機管理意識を高め、日常に潜むリスクを察知し、確実な安全指導に努めます。

【めざす子ども像Ⅱ：確かな学びをつくる】のさらなる育成に向けて

(1) 基礎基本の確実な定着を図ります。

- ・他者に伝わる話し方・他者が安心する聞き方について児童と共有し、適切に支援していきます。
- ・授業において、自分の考えを書く・話す時間を重視し、児童の表現には適切に評価します。
- ・図書司書やGTによるブックトーク、図書委員会による本の紹介、読活タイムを継続します。
- ・ICTを活用して児童の理解の状況に応じて支援する等、「指導の個別化」を図ります。
- ・家庭学習では、児童自らが自身の状況に合わせて選択する内容も取り入れ、学習習慣の定着を図ります。

(2) 学力テストの結果分析を生かした授業改善を行います。

- ・児童の興味・関心に即した課題を設定して学習を発展させる等、「学習の個性化」を図ります。
- ・学力向上プランの検証・改善を確実にいき、学校全体で組織的に学力向上に努めます。
- ・児童の非認知能力の向上を目指して、子どもが自ら学習を進める「主体的な学び」の具現化を図ります。

(3) 教職員相互で児童理解・授業技術を高め合います。

- ・児童の発達の段階、思考の特性等において理解を深めます。
- ・児童自らが主体的に学ぶ(学び方を学ぶ)学習指導の在り方を追究します。

【めざす子ども像Ⅲ：正しいこと・優しいことを進んでできる】のさらなる育成に向けて

(1) いじめを絶対に許さない学級をつくります。

- ・学級担任一人に任せるのではなく、より多くの教職員で児童を見守ることで多面的な児童理解に努め、教職員間で学級や児童の状況を把握し、より適切な支援について日常的・定期的に模索します。
- ・教師自身の言動に気を付け、児童の模範となる適切な環境をつくります(マルトリートメントの払拭)。
- ・物事の大小にかかわらず、保護者に連絡し、学校と家庭とでの共通理解の下、迅速かつ誠意ある対応に努めます。

(2) 規範意識と思いやりの心、生命尊重の精神を確実に育みます。

- ・道徳科では、「親切・思いやり」「規則の尊重」「生命の尊さ・自然愛護」の内容を重点化し、言葉遣いやあいさつ、栽培・飼育活動等、自分の日常生活とつなぎ、自分事として捉える学習を設定します。
- ・学校行事や児童会での異学年交流を重視し、自分を認めることで他者を大切にすることができる心の醸成に努めます。
- ・全ての教育活動において、児童自らが選択する・自己決定する場面を大切にします。

(3) 感染症防止のための行動様式を身に付けさせます。

- ・児童一人一人が基本的な感染対策を理解し、継続して行動できるよう支援します。

これからの教育は、「Try&Error」と「Collaboration」!

今後、子ども達に求められる重要な力は、「自分で課題を見つけ、粘り強く解決する力」、「他者と心を通わせ、力を合わせる力」です。これらの力の育成に向けて、地域と保護者と学校とがワンチームになって、今後の教育活動が充実したものとなるよう、励んでまいります。

＜第4号 文責：教頭 二串 英一＞